

就職活動を終えて

松山大学経済学部経済学科

4年 上原 美那子

I. はじめに

「この電話がかかってきたってことはわかりますね。一緒に働きましょう。内定です。残りの大学生活を有意義に過ごしてください」。この電話は4月17日の午後、百貨店の喫茶室にいるときに、第一志望の会社の人事部からかかってきた。私はこれほど嬉しい電話をもらったことはない。この会社で心底働きたいと思っていたからだ。

今般就職活動を終えた大学生として感じた問題点や苦勞したことなどを書いて欲しいと依頼を受けた時、私のような学生が執筆するのは不遜と思ったが、愛媛の大学生が置かれている現状を多くの方々に知っていただくと思い、筆を執ることにした。幸運なことに私の就職活動は最高の結果を得られたが、それは多くの人たちに支えられて得られた結果であって、率直に言えば私を含め愛媛の大学生の就職活動にも、企業の採用活動にも、行政の雇用促進策にも、なお改善の余地が多いと感じられるからだ。就職活動中は県外に行く機会が少なくなく、他県の企業の採用活動に接し、他県の大学生と交流する機会も多く得た。その中で感じたことは、大都市と愛媛とでは、就職活動と採用活動に大きな違いがあるということだ。本稿では、私自身の就職活動を振り返りながら、どこに違いがあると感じたのかを説明したいと思う。愛媛は若年者の雇用が大きな課題とされているが、もし、これから述べる私の体験が、少しでも参考になれば幸甚である。

II. 大都市と愛媛の違い

(1) 大学生……将来像の明確さが違う

大都市の大学生と愛媛の大学生を比較すると、自分の将来像の明確さに違いがあり、それが就職に対する姿勢の差となって表れているように思う。大都市には、旧財閥系の大企業から最近注目を集めるベンチャー企業まで、様々な企業が数多く集中している。大学生たちは、先輩を通して話を聞いたり、実際に訪れたりすることができるため、企業を身近に観察することができる。視野は広がり、企業研究も充実したものになり易いし、企業の中で自分に何が出来るのか、何処までできるのかなどの将来像も見えてくるのだろう。

その結果、自分自身の将来像についても早い段階から考えるようになり、就職活動の開始も早くなるのだと思う。大都市の大学生に、地方の大学生の印象を聞くと、多くが「時間の流れが遅いように感じる」と話す。早い段階から自分自身の将来像について考えた大学生は、就職活動をする時期には、明確な自己PRができるようになってきている。就職試験間際になって考え始めた大学生とは意識や取り組みに大きな差が生じてくるのではないだろうか。

(2) 企業……大都市と2ヶ月の差がある

愛媛の大学生の就職への取り組みが遅いのは、将来像を早くから考える環境にないからだけではない。私は愛媛の企業にも責任の一端があると思う。採用活動が大都市に比べて、2ヶ月間遅いということだ。

業種間で差があるものの、愛媛では就職試験のピー

クが3月～7月に対し、大都市では1月～5月になる。就職関連イベント、合同会社説明会、エントリーシート提出、1次試験から2次試験までの猶予期間……。全てにおいて愛媛は遅い。私は愛媛と東京、大阪を行き来する中で、そういった時差を肌で感じてきた。

愛媛の企業の人事担当者からは「大都市の企業の採用が終わらないうちに、内定を出しても入社してくれない」という言葉も聞いた。しかし、私たち大学生は魅力ある企業であれば大都市であれ、地方都市であれ、喜んで働かせていただきたいと思っているが、初めから一歩引いたような企業には全く魅力を感じないし、働きたいと思わないのが偽らざる気持ちでもある。

(3) イベント……大都市中心での開催

就職関連のイベントは、社内を見せてくれる企業見学会、「就職活動とは」と精神的に学生を就職活動モードにしてくれる講座、各企業がそれぞれブースに分かれて会社説明する合同説明会、長期休暇を使って学生を働かせてみるインターンシップなど実に多種多様だ。ところが、これらのイベントが、愛媛では活発になされているとはいえない。就職活動中、「もっと愛媛に早くから、そして多彩にこうした就職イベントがあればいいのに」と何度も思った。就職活動は孤独との戦いでもある。しかし、自分から動いて情報を手に入れても、興味や関心を引かれるようなイベントが愛媛にないということが孤独感を募らせる結果にもなった。

昨年7月、東京に本社を置く総合商社が開いた「ブレ・インターンシップ」と題した企業見学会に参加した。「総合商社とは」「ビジネスとは」そして「就職活動とは」というような課題を1日かけて学ぶ体験型のイベントだった。ここで最も印象に残ったのは「ビジネスとは」と学ぶために催されたワークショップだ。大学生が3人ずつのグループに分かれて架空の商社を立ち上げ、売り上げや利益を競うもので、参加者たちは、みな真剣そのもの。私はその真剣ぶりに圧倒されて、正直ついていけなかった。ショックを受けて愛媛に戻ってきてみると、周りの学生たちの就職や将来に対する意識はまだまだ低く、啞然としたことを覚えている。やはり、このようなイベントを通じて就労意識

も醸成されるのだから、この点でも大都市と愛媛にはギャップがあるように思う。

(4) お金と時間……最大の格差

就職活動をする際に、一番の問題になると言っても過言ではないのが経済的な問題だ。東京と松山を一往復するのにかかる交通費は、スカイメイトの格安航空券を使ったとしても約3万円。そして、会社訪問や入社試験を受験できるのは1日に1社、うまくスケジュールが組めても2社が限界だ。このように地方から東京、大阪の企業への就職活動は、大学生にとっては信じられないような額の交通費と莫大な時間を費やさなければならない。交通費や宿泊費を稼ぐには、やはりアルバイトをするしかない。全国生協調査ランキングで松山大学は「アルバイトにかける時間」の第1位だった。就職活動資金を稼いでいる人が、少なからずいるからだと思う。私もある程度、交通費や宿泊費を貯めたが、そのために節約生活が欠かせない貧乏大学生だった。学校に行く際はお弁当とお茶を持参、外食は控える、服が欲しくても買わずにウィンドウショッピングで我慢……。県内だけで就職活動をしている大学生には大きな問題とはならないと思うが、現実問題、そのような大学生は少ないのではないか。

Ⅲ. 各方面へお願い

(1) 企業に対して

前述したが、大学生は、ただ単に企業規模が大きいとか、大都市に本社があるとかでは、その企業に魅力を感じない。「若い者の意見に本気で耳を傾けてくれる企業か」「一緒に成長していける将来性のある企業」。そして、「私たち女性をきちんと戦力として評価してくれる企業か」などを、大学生は真剣に見ている。

ところが、愛媛の企業の中には、そういった私たちの思いを全く理解しようとはしない企業が散見された。「過去、女性の総合職を採用したことはありません」「不採用にした理由は面接でスムーズに話をされたからです。あたなのように慣れし過ぎている人はうちには向きません」。いずれも採用活動中に聞いた愛媛の企業の人事担当者の発言だ。

就職戦線が買い手市場であることは間違いない。しかし、就職試験を受けている大学生だって、その企業の製品を購入する顧客になることもある。人を大切にしない企業が成長していけるとは思えないし、結果的にそういう企業に就職しなくて良かったと思っている。

(2) 行政に対して

行政の支援は大変心強いものであるが、あえて要望を言わせていただくなら、生の大学生の意見にもっと耳を傾けてほしい。実際に大学生に触れてみると、新たに感じ、気が付くこともあると思う。例えば前述したように就職関連で、大学生が興味や関心を引くようなユニークなイベントの県内での開催は極めて少ない。地場企業だけを集めての合同会社説明会ぐらいしか利用するものがなかったのが現実だ。愛workが新しい取り組みを始め、さまざまな就職支援を実施しているが、それでも大都市と比べればまだ格差が大きい。また、開催時期も大都市と比べて遅いように感じる。

また就職支援活動が私たち大学生のためにあるのではなく、地場企業の採用活動のためにあるように感じる。もちろん、県内企業だけでミスマッチもなく、100%就職できればそれでいい。しかし、県内企業の求人が、愛媛の大学生の求職を充足できない以上、東京や大阪に就職活動をする大学生の支援策があってもいいのではないだろうか。

松山大学は、期間限定ながら週一便無料送迎バスを松山一大阪間に走らせているが、行政が支援すればもっと拡大できる。東京や名古屋、広島など行き先を増やすほか、就職活動が通年化している今日では、就職試験のピーク時だけでなく通年運行して欲しい。そうすれば、会社訪問や企業説明会にも今以上に参加でき、大都市の大学生とのギャップをある程度は解消できるのではないだろうか。

さらに、就職支援の対象が3年生、4年生中心であることも改善の余地があると思う。履歴書の書き方や面接の受け方など、応急的な講座を開講するだけでは限界がある。企業の面接を受けて分かったことだが、採用側が目しているのは、お辞儀の角度や服装などではなく、どんな大学生活を過ごしてきたかだ。入学

直後からの社会による職業教育の必要性を痛感する。4年生は早い時期の就職活動が終わっているのだから、これを就職支援スタッフとして活用するのも一案ではないだろうか。

(3) これから就職活動を始める後輩に対して

地方大学だから……と恐れる必要はない。大都市を含め、私の周りには希望する会社に内定をもらった人がたくさんいる。しかし、愛媛に就職するなど言っているわけではない。私は自分の生まれ育った故郷、愛媛を心から愛している。穏やかな気候に恵まれるだけでなく、穏やかな人が多く住むところと思っているからだ。「最初で最後の大学生活です。その4年間をどう過ごしましたか」「これだけは誰にも負けない！と言えることは何ですか」。そう聞かれた時に、胸を張って「聞いてください」と言えるものを大学生活の中で培って欲しい。何も特別なことをする必要はない。ゼミでの研究でも、語学の勉強でも、サークルでもいい。たったひとつでもいいから、誇れる何かを見つけて育むような大学生活であれば、企業はちゃんと評価してくれる。

早いうちから全国に飛び出し、就職関連のイベントに参加することも勧めたい。きっと良い就職活動仲間ができ大きな励みになるはずだ。こんな企業もあるのだという会社に出会える機会も間違いなく増える。それだけではない。愛媛の良さも更に分かるようになる。愛媛のことを自分自身、意外に知らなかった、ということに気づくこともあると思う。そして、それを体感できたら、もっと違う将来像も見えてくるのではないだろうか。いろいろと悩み、苦しむこともあると思うが、諦めず、何度も何度も自分を見つめ直してみたい。そうすれば必ずや納得できる結果が得られるはずだ。

最後になったが、私が無事、第一志望の会社から内定をいただけたのは「人」との素晴らしい出会いがあり、様々なドラマを経験させていただいたお陰だと思っている。だから、そんな「出会い」に感謝したい。そして、今までに出会い、お世話になった方々に、この場を借りて心から御礼を申し上げたい。